

エレベータ駆動システム
開発担当者
牧野 洋三

エレベータ駆動システム
開発担当者
山田 幸治



その巻き方、ジェントルメン。

MEIDEN Engineer's Note : No.3 エレベータ駆動システム

人間は、とても敏感。エレベータが動き出す瞬間、わずかにカゴが上下します。その動きが約0.3mm、およそコピー用紙3枚分を超えただけで、私たちは不快に感じるそうです。明電舎は、これまで培ってきたモータとインバータの技術で、乗り心地と安全性を高める駆動システムをつくっています。実は六本木ヒルズでもそのシステムが採用されているんです。カゴを動かすモータは、内部の磁石のカタチを工夫することで、トルクリプル

を減らし、より振動の少ない昇降を可能にしました。また、インバータはモータの回転数を制御し、起動・加速・停止をスムーズに行います。安全性も忘れてはいけません。事実、エレベータの安全性テストは、他の乗り物に負けないくらい厳しい。それは、私たちが毎日乗るものだから。安全かつ快適な乗り心地で、私たちが少し先の未来へ運ぶエレベータ。これからもそのスムーズな流れを、明電舎の駆動システムが引っばっていきます。



多くの高層ビルで採用されている明電舎のエレベータ駆動システム。

Web へ、まいります♪ | 明電舎 エンジニアズノート | 検索

テクノロジーで、流れを変える。 株式会社 明電舎